



神奈川支部報

神奈川支部報 第 4 号

発行日：2017年1月1日

発行者：込田伸夫

発行所：公益社団法人日本山岳会神奈川支部
横浜市青葉区若葉台 2-58 込田方



↑ 大山北尾根から表尾根越しの富士

新年のご挨拶

込田伸夫

神奈川支部の皆様、新年おめでとうございます。本年もよろしくお願ひ申し上げます。

思い起こせば 2016 年 3 月 19 日に横浜市の神奈川大学において、日本山岳会の小林会長をはじめ役員の方々、および近隣支部長の皆様にご臨席いただき神奈川支部設立総会が開催され、関東地方で唯一支部のなかった神奈川県に全国で 33 番目の支部が誕生しました。支部設立では森前会長はじめ関係各位の多大なご尽力によるところ大で、改めて厚く御礼申し上げる次第です。日本山岳会の設立に深く関わり初代会長となった小島烏水は横浜で育ち、烏水に山岳会設立を熱心に薦めたウェストンも横浜在住で、日本山岳会発祥の原点ともいふべき横浜で設立総会が挙行されたことは、誠に感慨深いものがありました。

神奈川支部発足を受け、2016 年 4 月 16 日に初めての支部山行を麗らかな春の日に弘法山・権現山にて実施しました。40 名を超す会員の皆様に参加していただき、会員相互の親睦を大いに深めることができた記念すべき山行となりました。さらに丹沢・三の塔や鎌倉アルプスの山行が実施され、会員相互の交流に大いに寄与したものと思います。支部設立後間もない 4 月には、越後支部主催による全国支部懇談会が新潟岩室にて開催され、これが神奈川支部として初の公式行事参加となりました。10 月には東京多摩支部主催で埼玉、神奈川の三支部合同懇親山行が奥多摩で行われ、また 11 月には神奈川支部主催の静岡支部との合同懇親山行が箱根の神奈川大学保養所にて実施され、多くの会員の皆様が参加されました。

神奈川支部は設立の趣意書にもあるように、「山を楽しむクラブ」をモットーとしています。そのため会員の皆様が満足する山行を、「すべての支部会員が委員」の山行委員会が中心となって企画・実施していきましょう。また若い会員が多いので、YOUTH委員会を中心に、経験豊かなベテランと共に若い会員がもっている能力を生かし、十分に発揮できる活動の場を提供していきたいと思うと同時に、若さ溢れる活発な活動を展開してもらいたいと願っています。新年度は森前会長の提案による神奈川支部設立5周年記念行事として、神奈川県山岳誌（仮称）作成を行うためのプロジェクトチームを立ち上げ、2017年4月から実施の運びとなります。また支部として今年は「山の日」関連の行事も予定しています。

2年目を迎えます2017年も、引き続き会員皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。そして最後になりますが、神奈川支部会員の皆様におかれましては新しい年が実り豊かな素晴らしい年となりますことを心から祈念いたします。

《特別寄稿》

山岳会を創った“ハマの岳人たち”（2）

岡野金次郎（おかの きんじろう）

1874～1958

砂田定夫

49歳のとき大震災で転居するまで横浜に育ち、在住し岡野金次郎は、盟友小島烏水に比べてその功績が案外知られていない。日本山岳会（以下、JAC）創立の中心となり、多くの著述によって世に知られた小島に比べ、自ら名士扱いにされるのを嫌い、発起人にならなかったばかりか、JACを脱会し、生涯在野で生きた人だったからであろう。直系の孫である岡野修氏によれば、名士や学者ぞろいのJACの人々とは肌が合わなかったと話していたらしい。小島をW・ウェストンに引き合わせ、JAC創立の扉を開けたのは岡野であり、岡野の存在がなければJACの設立は何年遅れたかしのれない。



1902（明治35）年、小島と岡野が槍ヶ岳に登頂したのは、日本人による近代登山史上の画期的な記録であったが、小島の両親

の猛反対で中止になりそうになったとき、岡野の一計で実施に至った経緯もあった。その翌年、岡野は勤務先である横浜のスタンダード石油会社で、支配人が外人クラブに回覧するため梱包しようとしていた一冊の本を偶然見かけた。中をめくってみると前年苦心して登った槍ヶ岳などの写真が載っている。それがW・ウェストン著『日本アルプスの登山と探検』だった。驚いた岡野が小島へ知らせる。さらに外人名簿を調べ、著者のウェストンが横浜に滞在していることを突き止め、当人へ手紙を書いてアポイントを取り、単身面談するに至った。このあたりは岡野の好奇心と行動力によるものであり、独学で勉強した英語力が役立ったことは想像に難くない。岡野・小島とウェストンの交友は、やがて山岳会創立へとつながった。

健脚の岡野は、少年時代から母の郷里である秦野の丘陵や大山などに登っていた。初登山は1892（明治25）年の塔ノ岳で、18歳のときだった。JAC創立会員の武田久吉や高野鷹蔵らが玄倉から塔ノ岳に登った年より13年も前のことで、近代登山の歴史が浅かった丹沢における先駆者となった（「JAC神奈川支部報」第2号参照）。岡野はスタンダード石油会社を定年まで勤める一方、国内各地の山に限らず当時日本統治下にあった満州、樺太、朝鮮など広域の山から近郊の山に至るまで親しみ、特に富士山には82歳になるまで112回も訪れた。生まれは横浜の保土ヶ谷だったが、震災や戦災などで転居を繰り返したあと、平塚市に落ち着いた。84

歳のと、交通事故で死去。その3年後、平塚市が岡野の登山界における先駆的功績を讃えて湘南平にレリーフを建立した。

神奈川支部設立記念行事

神奈川県内のすべての山と峠を踏査して日本山岳誌神奈川県版を作成しよう！！

神奈川支部も昨年3月19日に設立し、体制整備を進めてきて、ようやく本格的な事業を実施する段階にこぎ着けた。そこで、以下のような主旨と内容でプロジェクトを立ち上げ、今年度の残り期間で企画・実施体制を確立し、来年度から事業を推進していくことにした。

1. 目的：神奈川支部設立を記念して、5年計画で神奈川県下の2.5万分の1の地図に記載された山名と峠及び登山対象となるピークのすべてを登って、日本山岳誌の神奈川県版を作成し、それらの情報提供などを通して社会へ貢献し、公益社団法人としての役割を果たす。当面は、日本山名事典に記載されている282ポイントある県内の山・峠を踏査し、その後2.5万地形図に載っているピークを可能な限り踏査することを試みる。
2. タイムスケジュール
2016年度：企画立案
2017～2019年度：山行実施とその報告書作成
2020年度：出版またはHPでの公開のための作業（支部設立5周年記念）
ただし、このスケジュールはあくまで目標であって、実際の踏査や編集作業などでずれ込む場合がある。
3. 具体的作業
(1) 対象となる山の特定：三省堂「日本山名事典」から神奈川県内の山と峠を抽出し、国土地理院の2.5万分の1地図にポイントを記載し、それらを効率よく踏査するコースの設定を行う。
(2) 山行の順序は、いろいろな要素を考慮して体系的に実施する。山行報告は、フォーマットを作成して統一的に行い(写真を含む)、EXCELでファイルとして

保管する。

- (3) 1回の山行では主目標の山を決め、途中のピークや峠も含めて報告する。平均して1回の山行で、3ピーク程度をこなす。

4. 特長

- (1) 成果を公表する。
- (2) 登山道やピーク位置などの情報を国土地理院に提供する。
- (3) ガイドブックとしての役割の他に、対象となる山に関連した文化的な情報（例えば山名の由来など）も記載して、付加価値を高める。

5. 実施体制

役員会のもとにプロジェクトチーム(PT)を設置し、そのリーダーのもとにスタッフを置いて、山行ごとにレベル設定し、募集する範囲(PTの指名した範囲、支部会員への公募、一般公募)を決めるが、なるべく多くの支部会員が参加できるように配慮する。

また、このプロジェクトに積極的に加わり事業の推進にご協力いただける方は以下へ申し出てください。単に踏査山行だけでなく、車などのサポーター、文化的要素の推進、編集作業など多岐にわたっているので、多くの会員の参加を期待している。問い合わせ及び申し込み先

森：mori@he.kanagawa-it.ac.jp

プロジェクトのキックオフ山行の案内

上記プロジェクトの第1回山行を2017年4月15日(土)に湘南平で実施します。詳細は決まり次第ご案内いたします。多くの支部会員の参加をお待ちしています。

3支部合同懇親山行に参加して

込田伸夫

東京多摩支部が主催し、埼玉支部および神奈川支部による三支部懇親山行が2016年10月29日～30日に行われた。神奈川支部からは7名の参加者があり、埼玉支部11名、東京多摩支部26名と合わせて総勢44名が、山岳信仰で栄えていた御岳の宿坊「山楽荘」

に集合した。紀元前の創建と伝えられる御嶽神社のある山上集落には、樹齢一千年を超す神代ケヤキもあり、いにしえから続く聖地として厳かな雰囲気醸し出している。御岳は縄文時代にさかのぼるとされる「オイヌさま」と呼ばれるオオカミ信仰で知られていて、独特の「オオカミの護符」でも有名である。オオカミを「オイヌ様」と呼ぶのは、婉曲的な表現を使うことでオオカミに対する畏怖・畏敬の念を表現しているとされる。宿坊は御師（おし）と呼ばれる神職によって営まれていて、もともと「御嶽講」の人々が参拝するときの宿泊所であり、現在 20 軒ほどが参道付近に点在している。今でも講は信州の戸隠、富士山、相模の大山、出羽三山などに残っているが、各地から集まってきた御嶽講の人たちには、各々古くから付き合いのある御師がいて、その宿坊に泊まるのが習わしとなっている。

初日は各支部長の挨拶、片桐御師の人間の根幹に迫る講話、神崎前日本山岳協会会長の山に対する情熱溢れる講演の後、森前会長による乾杯で宿坊ならではの料理を楽しみつつ懇親会が始まった。互いに交流を深めるなか、先輩支部の方々から支部の運営や山行などについての有意義な話を聞くことができた。翌日は快晴だった到着の日と異なり曇り空であったが、3つのグループに分かれて特徴ある山容ゆえ古来、船人の目印になっていた奥多摩の名峰大岳山（1226.4m）を目指した。途中、山頂直下の荒廃した大岳神社には宝暦年間の奉納とされる可愛いオオカミの狛犬(?)があった。昼過ぎには下山してグループごとに解散となったが、山行途中、各班のリーダーによる御岳の文化・歴史、自然についての解説があり、素晴らしい山行を楽しむことができた。

来年は神奈川支部主催の三支部合同懇親山行ですが、神奈川支部会員各位のご協力をよろしくお願いいたします。三支部の合同山行によって、会員がお互いにより一層懇親を深め、安全で楽しい山行ができることを心より祈念するとともに、今回行き届いた三支部の合同山行を企画・実施されました東京多摩

支部の皆様にご心より御礼申し上げます。
参加者：込田伸夫、石村日満子、井村英明、酒井俊太、西田進、日出平洋太郎、森武昭



↑ 御岳三楽荘にて

静岡支部との交流会実施！！

森武昭（支部事務局長補佐）

神奈川支部は、約半年の準備期間を経て、今年 3 月 19 日に設立総会を開催した。その会には、本部役員や近隣支部など多くの来賓の皆様にご出席していただいた。その席で、以前から懇意にいただいている静岡支部の大島支部長から、「神奈川・静岡は隣り合っているので合同の交流会を実施しませんか」との提案をいただいた。勿論、有り難い話なので、即座に「箱根でこの秋にやりましょう」と回答した。4月の支部役員会で正式に承認され、寺井事務局長が率先して担当を引き受けてくれた。そして、支部アドバイザーの落合会員に依頼して、神奈川大学箱根保養所の使用に尽力していただいた。当支部が幹事役となる初めての対外的な行事であり、事務局長が静岡支部と密に連絡をとりながら周到に準備を進めていただいた上に、山行当日が好天に恵まれたこともあり、参加者の皆様にご十分満足していただけたのは幸いである。

以下は、参加者の山増智恵子会員からの報告である。



↑長尾峠にて

支部交流会に参加して

山増智恵子

神奈川支部の山行には今回初めて参加しました。一泊二日ということもありやや緊張しました。保養所に着くとこんなに素敵なお部屋だっけ？と思うほどロビーの大きさやお部屋が旅館と思えるような立派な造りでした。

神奈川大学山岳部監督の落合先生の講義があり、大学山岳部で世界七大陸の最高峰を登頂するお話には山岳会に入りたての私には想像以上の世界でした。落合先生の山岳部への思いと学生を育てる熱意には感動しました。講義を終えて夕食へ。食べきれないほどのご馳走でした。食事中には静岡支部の年配の方からの話を聞き、山は何歳からでも始められるものだと思います。食後の宴会では山の歌を皆さんが歌ってくださり、いろいろ山のエピソードを聞くことができました。

一日目は大雨でしたが二日目はうって変わったの快晴となり、まさに登山日和となりました。金時山は四回目で頂上から富士山が見られることを楽しみに登りました。晴れていたのですが、11月とは思えない程の暑さで登っている時はこたえました。頂上に到着すると晴れということもあり登山者が多く人気の山であることを改めて思いました。期待していた富士山はやや雲がかかっていましたが頂上は見ることができ満足でした。落合先生は雪がたくさん積もっているのを見て目をキラキラ輝かせ、見方が違うのだと思いました。無事に下山し保養所で解散。今回

参加して神奈川支部や静岡支部の方々から楽しい山の話聞くことができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。

「親子で楽しむ山登り」取材山行

本部からウェブサイト「親子で楽しむ山登り」の追加コースの踏査の依頼があり 9月18日～10月23日に取材山行を行った。

アナウンスが急だったにもかかわらず、数名の方の協力が得られ、6山の取材を終え本部へ原稿を提出しました。



↑初回の大野山はあいにくの雨天



↑矢倉岳は晴天の中、親子での参加もあった

本部にて取りまとめ後、JACのウェブサイトに掲載予定。

忘年山行大山

12月17日忘年山行として大山を2つの

コースから登った。

メインルートである下社からのコースよりも、バリエーションである北尾根の人气が高く、神奈川支部の志向が現れたイベントとなった。

北尾根は踏跡もしっかり付いており、稜線の各所からは西側の展望が得られ、表尾根の上に秀麗な富士が眺められた。



↑ 大山北尾根地獄沢右岸の尾根を登る



↑ 北尾根から富士を狙いカメラを構える

われら神奈川支部

支部会員リレー紹介

前号で本欄に投稿させて戴きました永井泰樹です。今回は、JAC入会前からの知人で、北アルプス、富士山エリアにて、パワー全開の活動をされている西垣さん（会員Noは、なんと15000）にお願いしました。

朝は一杯の白湯から

西垣竜一

山の朝は早く、たいてい真夜中の3時に起床します。真っ暗なテントのなか手探りでライトをつけ、朝イチでおこなうことが湯を沸かし白湯をつくることです。凜とした山の冷気のなか、ガスの灯りに心が癒されます。アツアツの白湯をのむと身体の芯があたたかくなり、前日の山行で重くなった手足に、気力がよみがえってきます。朝食の時間を短縮するため、あまった白湯に前日のこった白飯をおとして湯漬けにして食べます。腹もあたたまったのち、もういちど湯を沸かしてサーモスにいれ、あまりでインスタントコーヒーをつくります。コーヒーをのみながら、地図をひろげ1日の行動ルートを頭にたたきこみます。手早くテントをかたづけパッキングしたのち、夜も白みはじめる4時前に出発します。季節によっては星空のなかでの出発になりますが、朝4時にできれば、夜7時頃まで14時間は歩くことができます。

永平寺の雲水さんは朝3時半に起床して座禅や勤行をするそうです。それを真似たわけではないのですが、山行をくり返すうち、起床から出発までの動作は儀式のように身体にしみついてしまいました。一杯の白湯は、朝の儀式のスタートであり、かつ身体を”山モード”に切り替えるスイッチだと思っています。

役員会報告

10月役員会

日時：10月18日（木）19：00

場所：神奈川工科大学 横浜事務所

報告事項

- ・会員の異動について
- ・平成28年度会計中間報告
- ・支部報（第3号）の発行について
- ・第3回山行委員会・YOUTH委員会(9/15)について
- ・自然保護委員会の委員について
- ・「親子で楽しむ山登り」取材山行について

て

- ・登山教室指導者講習会への参加について
- ・その他

審議事項

- ・支部山行について
- ・東京多摩、埼玉、神奈川3支部合同懇親・山行（御岳宿泊、大岳ハイク）10/29-30
- ・静岡支部との懇親山行（神大箱根保養所泊）11/19-20

- ・忘年山行について
- ・支部総会について
- ・平成29年度事業計画について
- ・今年度の支出計画に関して
- ・その他

12月役員会

日時：12月15日（木）19:00

場所：神奈川工科大学 横浜事務所

報告事項

- ・会員の異動について
- ・第4回山行委員会・YOUTH委員会（11/17）について
- ・東京多摩、埼玉、神奈川3支部合同懇親山行（10/29-30）
- ・静岡支部との懇親山行（11/19-20）
- ・「親子で楽しむ山登り」取材山行
- ・支部長会議・年次晚餐会（12/3）
- ・その他

議題

- ・忘年山行（12/17）について
- ・山行計画について
- ・神奈川県山岳誌プロジェクト（仮称）について
- ・支部総会について
- ・支部の共同備品の購入について
- ・平成29年度事業計画・予算について
- ・支部報（第4号）について
- ・その他

山行委員会・ユース委員会

日時：11月17日（木）19:00

場所：会場：神奈川工科大学横浜事務所

- ・南関東ブロック三支部合同懇親山行報告
- ・静岡支部との懇親山行予定
- ・大山・支部忘年山行について
- ・準山行計画、1/14 奥武蔵/蔵山、2/12 吾妻/小野子山。提案者の都合により中止。

- ・神奈川県山岳誌作成の提案

12月5日に内部の打合せを行う。

- ・酒井俊太・永井泰樹・田島剛3氏に山行委員をお願いし、了承を得た。
- ・「準支部山行」の進め方について検討
- ・神奈川支部・会員への登山についてのアンケート来年実施予定。

今後の予定

神奈川支部新年会へのお誘い

支部会員の皆様が一堂に会して親しく歓談する機会を設け、気軽な雰囲気の中で皆様の様々なアイデアをお聞きして、支部運営に反映させていきたいと考えております。つきましては下記のように支部新年会を企画いたしました。

支部会員の皆様におかれましては新年のお忙しい時期とは存じますが、支部新年会にぜひお越しくださいますようお願い申し上げます。

予約の都合上、申込み期限は20日（金）とします。それ以降はお問合せください。

日時：1月26日（木）18:30～20:30

場所：「わたみんな」横浜市西区高島2-6-32
横浜東口ウィスポーツビル2F
（横浜駅より徒歩7分、1階はカモシカスポーツ）

会費：3500円前後

申込み：込田

komita@gen.kanagawa-it.ac.jp

045-962-3820

準支部山行：世附権現山（レベル3：中級）

日時：2月11日（土）

コース：浅瀬入口ー東電水力発電所上ー661mー権現山ー755m（アンテナ平）ー細川橋

行動時間：約5時間

集合：9:30 丹沢湖浅瀬入口バス停

交通：新松田8:25発（富士急湘南バス西丹沢自然教室行き）

申込み：田島 剛（携帯：090-9688-3958、メール：tt525ihiline@icloud.com）

締切：2月4日（土）

詳細はお問い合わせください。

支部山行：湘南平（レベル1：初級）

日時：4月15日（土）

コース：未定

問合せ先:長島泰博(携帯:090-5554-8345、
y-naga.01289.k59@kxe.biglobe.ne

詳細は後日発表いたします。

支部会員動静

入会

13565 稲垣 哲郎

今後の予定

役員会

2月16日(木)19時～

山行・YOUTH委員会

1月19日(木)19時～

3月16日(木)19時～

場所はすべて神奈川工科大学横浜事務所
(横浜駅東口ウィスポーツビル10F

※カモシカスポーツのビルです。

《山行委員会へ参加してください》

神奈川支部の山行計画は、役員や一部の山行委員だけが計画を立てるものではありません。支部会員の皆さんが自主的に計画し、仲間を募り実施していく方針で活動しています。

山行・YOUTH委員会に参加していただき、意見、提案をどんどん出していただきたいのです。神奈川支部の活動が低調でつまらないという声も聞きます。神奈川支部はツアー会社ではありません。どうぞそのことを理解していただき積極的に参加をお願いしたいと思います。

参加される場合は、資料等の準備もありますので、以下に連絡の上、参加してください。

井村 090-5822-9539

imurahide@yahoo.co.jp

《山行計画の提案方法について》

山行計画は山行委員会へ参加して提案するのが原則ですが、委員会へ参加できない場合は以下の要領で山行計画の提案を行ってください。

① 計画の提出

日程、コース、集合時間等を記載した計画を実施の2か月前までに提出。

提出先:神奈川支部代表アドレスへ

kng@jac.or.jp

② 計画のチェック

提出された計画は、山行委員会幹事会で内容を確認し、問題がなければ実施の承認がされる。当面、技術レベルが把握できていないため役員の1名が同行することを原則とする。

③ 参加者募集

計画立案者または同行役員が神奈川支部メーリングリストを利用して参加者募集をする。

支部報への掲載は広報担当へ。

鷹取山岩場の利用登録完了

横須賀市にある鷹取山の岩場は、あらかじめ使用許可を受けておく必要があるが、このたび神奈川支部として許可を得ましたので、積極的に使用してください。

利用方法等は次号でお知らせします。

問合せは神奈川支部代表アドレスへ

(担当:星) kng@jac.or.jp

あとがき

暖冬で雪不足であった昨年とはうって変わって、今年は早い時期から各地の雪の便りが届いています。久々の冬らしい冬です。スキーに、雪山にと山屋の楽しみは尽きません。一方で悲しい事故の知らせも入ってきます。やはり安全に楽しんでこそその山だと実感しています。安全意識と装備をブラッシュアップしてまいりましょう。

昨年は神奈川支部設立の記念すべき年でした。皆様にご協力をいただき、支部の体制も整いつつあります。今年はまだ皆様と山で一緒できるよう、沢山の企画をしてまいります。一人でも多くの方に参加していただきたいと思っております。よろしくお願いたします。(貞)

発行:日本山岳会神奈川支部 支部長:込田伸夫

編集者:植木貞一郎、多田友行、長島泰博

平成29年1月1日

次回は4月1日発行予定